

## 平成6年度 日本放射光学会の基本方針

日本放射光学会会長  
井口 洋夫



日本放射光学会は、創立（1986年）も、その活動分野として掲げる“放射光科学”の発展も、そして構成する会員900人の年齢も、“若さ”の一語に集約される学会です。この学会の平成6年度の会長の役を引き受けさせて戴きました。有能な幹事・評議員の方々と、すべてを熟知した事務局の支援を得て、歴代会長が敷かれた路線を守りながら発展して行きたいと思います。

日本の学術団体の総数は約1100、それを大きく分けて2種類あると思います。一つは、日本化学会や日本物理会のような万以上の単位の会員を持つ総合学会で、その使命は学術誌の発行と総合年会の実施を車の両輪とし、もう一つ大きな役割に学術・教育面での社会的発言力を持つと云うことです。そしてそれは、国の科学政策にも影響が及ぶ場合があります。

もう一つは、日本放射光学会のように、目的を絞った専門学会です。本学会では、放射光と云う“篝火”の許に集まった同志の集団です。従って、その目標は極めて明確です。放射光科学の推進です。第7期の平成6年度日本放射光学会は、まずこの目標に加えて、菊田前会長の許、従来の成果を綿密に解析して得られた学会活動総合検討委員会報告（全文本誌に掲載の予定）を基盤として、本年度内で次の改革を実行します。

その第一は、会長の任期の変更です。日本放射光学会も、若さの中にも次第に事業が軌道に乗って来たと判断。次期会長職よりその任期を1年から2年に変更します。これによって、その実行力を加速し、併せて学会の施策の継承性を向上させることを期したいと思います。

第二は、年会の運営方法を改正致します。去る5月11日12日の両日、第7回年会を神戸で開催しました。大阪大学勝部教授、金森学長の基調講演を以って開会し、400名の参加者を得て活発な研究集会が持てました。次回第8回年会からは、日本放射光学会主催の許、4実験施設、3利用者団体との共催で「放射光科学合同シンポジウム」を開催することに致しました。これにより国内外の放射光科学の成果を本シンポジウムに集約し、研究者の発表の重複をさげ、更に加えて各人の時間と経費の節約に資したいと考えています。

勿論、かなり大巾な変革であり、予期しなかった問題点の発生も考えられますので、この方法により今後2回の年会を実施した後、再検討することにして居ります。

なおここで、4実験施設とは、東大物性研究所軌道放射物性研究施設、高エネルギー物理学研究所放射光実験施設、分子科学研究所極端紫外光実験施設及び日本原子力研究所・理化学研究所大型放射光研究推進共同チームであり、また3利用者団体とは、PF懇談会、INS-SOR及びSPring-8利用者懇談会であります。

この改正に伴って年会の日程の変更を考える必要が生じます。その決定には8月開催の評議員会での議論が必要と思いますが例年の5月開催から1995年1-2月に移行する可能性が高いと思っております。

第3は会誌についてです。会誌「放射光」はバックナンバーとしても役立つ雑誌として好評を得て居ります。上記委員会報告を受けて、本年度中に日本放射光学会に相応しい会誌について早急に結論を得たいと思っております。

また、この5月の年会に引き続いて行われた研究集会“アジア交流放射光フォーラム”では、アジア各地で、陸続として大中のシンクロトロン放射光施設が立ち上がって稼働に入っている現状を、その各施設の責任者から聴くことが出来、非常に有意義でした。日本放射光学会としては、これら内外の諸施設が、その各々の特徴を充分生かして活用されるための交流の場を今後とも提供することになると思います。

SR科学は全会員の期待する如く若い研究分野だと思います。内殻励起領域の高分解能分光、価電子領域の電子分光、遠赤外分光、アンジュレータの導入、時間分解X線構造解析、内殻励起化学反応等々各分野で、実行すべき課題が山積みしています。しかし、もっと大切なことは、未知の領域なるが故に、全く予想を越えた現象が待ちかまえていることではないでしょうか。日本放射光学会が若く、且つ小型頭脳集団で、試行錯誤を行いながら、他にない学会をめざす如く、研究分野も未知の分野に切り込んでいくことになりましょう。そして必要に応じては科学政策への発言の機会も考えられましょう。

最後に、シンクロトロン放射光研究分野に於いても、アジア全体を含めて、人材不足を懸念しています。それにはどうしても次の世代を広く掘り起こすことが求められます。

日本放射光学会としては、まず次世代の若き研究学生 (research students) の学会参加を積極的に求めて行きたいと思っております。そして、機会を捉え、範囲を拡げ、工夫をこらし、放射光科学の面白さの理解を求める教育面への配慮も必要になっていると思っております。

それには全会員と力を合わせて、日本放射光学会を入会したくなるような学会にしたいと思っております。

会員のための学会を期しますので、何卒全会員の協力を心よりお願い申し上げます。